



暮らしのワンポイント

” 子供の誤飲を防ごう “

好奇心が強く、目についたものを何でも口に入れてしまう幼児の誤飲事故が多発しています。

誤飲事故の中でも特に気をつけなければならぬのが、化粧品や洗剤を飲んでしまった場合です。化粧品や洗剤には多くの化学物質が含まれていて中毒を起こしやすく、的確に応急処置を行わないと大変なことになります。

子どもが様子がおかしいことに気づいたら、何をいつ飲んだのか、容器の残量などを見てどのくらいの量を飲んだのかをチェックし、それから「吐かせるか、吐かせないか」を判断します。

化粧水やオーデコロン、香水、整髪剤などの化粧品の場合なら、水を飲ませてから口を開かせ、舌の奥を指で押さえるようにして吐かせ、その後すぐに病院へ。

日焼け止め剤は、吐かせずに牛乳を飲ませます。口紅、クリーム、乳液、ベビーオイルは、少量であれば心配はありませんが、大量に飲み込ん

でしまった場合は「中毒110番」が最寄りの救急病院に電話をかけ、指示をあおぎましよう。

洗剤は毒性が強く、命にかかわる危険があります。漂白剤、トイレ用洗剤、排水パイプ用洗剤、カビ取り剤などは、強い酸性やアルカリ性のものは、吐かせることで再びのどや食道を痛めてしまうので、絶対に吐かせてはいけません。すぐに救急車を呼びか、病院に駆けつけましょう。子どもの意識がない場合も同様です。

食器用洗剤、洗濯用合成洗剤、クレンジャー、石けん、シャンプー、リンスは、水を飲ませてから吐かせ、病院へ。いずれの場合も、残っている薬品や容器、吐かせた時は吐しゃ物も一緒に保存して医師に見せ、適切な処置を受けることをお勧めします。



日置俳壇

(兼題 初湯)

(雑詠)

初湯出てソツト秤にのって見
癒ゆる身の窓に陽も射し初湯
かな
長生きし初湯意のま、蛇口よ
り
わきすぎし初湯にソツト身を
沈め
嬰と入る初湯は温度計りから
初風呂や思いえがきぬ今年の
夢
八十を迎う感謝の初湯かな
黄波戸浦龍宮に一人初湯かな
石川 静子

宮本やすの
松岡ヨシ子
白石 敏江
富田佳津美
窪田 由来
國司ハル子
柚花 岩門
ころくと寺の屋根より雪こ
ぼる
西村亥子代

輪飾や村に一戸の散髪屋
三ヶ日孫と戯れ父笑う
どの子とも分かれぬ声の初電
家中の万両南天母の墓
つつがなくよき年なれと初日
記
生きざまを一行にこめ賀状書
富田佳津美
宮本やすの
石川 静子
木村 一路
大永 邦代
富田佳津美

《第4回国民年金作品コンクール》



(ポスターの部) 銀賞 日置中学校2年 上野 勝稔